試　験　対　策

1　傾向と解き方

（1）出題傾向

最近の全商簿記２級では、大問が４つ出題されています。

第１問が「**仕訳問題**」で７つの仕訳が問われています。仕訳問題では、３級と同様に、勘定科目が与えられますので、その中から適当な勘定科目を使用し、仕訳を解答します。

第２問は「**特殊仕訳帳制における帳簿の記入問題**」が主に出題されています。取引が与えられ、それに関して、２つの特殊仕訳帳への記入と関連する総勘定元帳や補助元帳の記入が問われます。

第３問は「**本支店会計**」、「**５伝票制における仕訳集計表の作成問題**」、「**勘定分析**」等、小問が３つ出題されます。「勘定分析」は与えられた情報をもとに、問われている金額を推定する問題で、パズル的な問題です。

第４問は「**総合問題**」で、精算表作成問題か、損益計算書（または損益勘定）及び貸借対照表作成問題が出題されます。また、関連して、決算整理仕訳や特定の勘定への記入が問われもします。

（２）解き方

合格するためには１時間30分という限られた時間の中で、70点以上の得点を獲得する必要があります。そこで大事なことは「**簡単な問題（得点しやすい問題）から解く**」ことです。第１問から順番に解く必要はありませんので、難しい問題や苦手な論点は後回しにしましょう。

第２問の「特殊仕訳帳制における帳簿の記入問題」は一番時間がかかりますので、最後に解くとよいでしょう。また、第３問の「本支店会計」も時間がかかることが多いので、後回しにした方がよいでしょう。

そこで、以下の順番で解くことをおすすめします。

第１問　→　第４問　→　第３問　→　第２問

公益財団法人全国商業高等学校協会のホームページに、全商簿記２級の過去問が公表されていますので、是非、最近の過去問を上記の順番で解いてみて下さい。

2　仕訳問題

最近の全商簿記２級の第１問は、仕訳形式の問題が７問出題されています。勘定科目の候補が与えられますので、その中から適切な勘定科目を選び、仕訳を解答します。与えられた勘定科目以外で解答した場合は、正解となりませんので注意して下さい。

ここでは、よく出題されている問題を論点ごとに復習していきます。

（1）手形取引

試験対策問題２－１　**さきに、鹿児島商店に対する買掛金の支払いのために振り出した約束手形50,000円について、支払期日の延期を申し出て、同店の承諾を得た。よって、新しい約束手形を振り出して旧手形と交換した。なお、支払期日の延期にともなう利息1,000円は現金で支払った。**

旧手形の金額で「支払手形」勘定（負債）の減少と増加の処理を行います。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
支　払　手　形	**50,000**	**支　払　手　形**	**50,000**
支　払　利　息	**1,000**	**現　　　金**	**1,000**

試験対策問題２－２　**さきに、大分商店から商品代金として受け取っていた同店振り出し、当店宛の約束手形について、支払期限の延期の申し出があり、これを承諾した。よって、支払期限の延期に伴う利息2,000円を加えた新しい約束手形82,000円を受け取り、旧手形と交換した。**

旧手形の金額で「受取手形」勘定（資産）の減少として処理するとともに、旧手形の金額に利息額を加算した金額（新手形の金額）で「受取手形」勘定（資産）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
受　取　手　形	**82,000**	**受　取　手　形**	**80,000**
		受　取　利　息	**2,000**

試験対策問題２－３　**栃木商店から注文のあった商品800,000円を発送し、代金の70%については、取引銀行で荷為替を取り組み、割引料を差し引かれた手取金555,000円は当座預金とした。なお、残額は掛けとした。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**555,000**	**売上**	**800,000**
手形売却損	**5,000**		
売掛金	**240,000**		

手形売却損：800,000×70%－当座預金555,000＝5,000

売掛金：800,000×30%＝240,000

荷為替の取り組みは、①自己受為替手形の振出＋②手形の割引ですので、以下のように２つの仕訳を考えるとわかりやすいでしょう。

①　自己受為替手形の振出

受取手形　560,000 / 売上　560,000

②　手形の割引

当座預金　555,000 / 受取手形　560,000
手形売却損　5,000

試験対策問題２－４　**広島商店から商品60,000円を仕入れ、代金は得意先岡山商店振り出し、当店宛の約束手形50,000円を裏書譲渡し、残額は掛けとした。なお、保証債務の時価は手形額面金額の１%とする。**

仕入代金の支払のために保守している手形を裏書譲渡した場合、「受取手形」（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**60,000**	**受取手形**	**50,000**
		買掛金	**10,000**
保証債務費用	**500**	**保証債務**	**500**

保証債務：50,000×１%＝500

試験対策問題２－５　**かねて商品代金として青森商店から裏書譲渡されていた約束手形が不渡りとなり、手形金額60,000円と償還請求費用2,000円をあわせて償還請求していたが、本日、請求金額と期日以後の利息1,000円を現金で受け取った。**

償還請求時に「不渡手形」勘定（資産）で処理していますので、請求金額を回収した場合には、「不渡手形」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
現　金	**63,000**	**不渡手形**	**62,000**
		受取利息	**1,000**

不渡手形：手形金額60,000＋償還請求費用2,000＝62,000

（２）固定資産

試験対策問題２－６　**東京商店は、取得原価10,000円の備品を5,000円で売却し、代金は月末に受け取ることにした。なお、この備品に対する減価償却累計額は4,125円であり、これまでの減価償却高は間接法で記帳している。**

販売代金の未収について、商品の販売以外は「未収金」勘定（資産）で処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
備品減価償却累計額	**4,125**	**備　品**	**10,000**
未収金	**5,000**		
固定資産売却損	**875**		

固定資産売却損：簿価5,875－売却価額5,000＝875

簿価：取得原価10,000－減価償却累計額4,125＝5,875

（3）社債

試験対策問題２－７　茨城産業株式会社は、次の条件で社債を発行し、全額の払い込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、この社債の発行に要した諸費用55,000円は小切手を振り出して支払った。

発行条件：額面総額1,000,000円　　払込金額：額面100円につき97円

償還期限：10年　　利率：年２%（利払い：年２回）

社債の払込金額を「社債」勘定（負債）の増加として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
当座預金	**970,000**	**社債**	**970,000**
社債発行費	**55,000**	**当座預金**	**55,000**

額面総額1,000,000÷額面100＝10,000口

社債：@97×10,000口＝970,000

試験対策問題２－８　茨城産業株式会社は、次の条件で発行している社債について、半年分の利息を小切手を振り出して支払った。

発行条件：額面総額1,000,000円　　払込金額：額面100円につき97円

償還期限：10年　　利率：年２%（利払い：年２回）

社債の額面金額に利率を乗じて、社債利息の金額を算定します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
社債利息	**10,000**	**当座預金**	**10,000**

社債利息：額面総額1,000,000×２%÷２＝10,000

試験対策問題２－９　香川物産株式会社は、割引発行した社債（額面500,000円、帳簿価額485,000円）のうち、額面300,000円を額面100円につき96円で小切手を振り出して買入償還した。

社債を帳簿価額より安い金額で買入償還した場合、帳簿価額と買入金額の差額は、「社債償還益」勘定（収益）で処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
社債	**291,000**	**当座預金**	**288,000**
		社債償還益	**3,000**

額面総額300,000÷額面100＝3,000口

当座預金：@96×3,000口＝288,000

社債：帳簿価額485,000× $\frac{\text{額　面 300,000}}{\text{額面総額500,000}}$ ＝291,000

（4）純資産

試験対策問題２－10　**沖縄株式会社は、設立にさいし、株式10株を１株につき50,000円で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、１株の払込金額のうち20,000円は資本金に計上しないことにした。なお、設立に要した諸費用70,000円は小切手を振り出して支払った。**

設立における払込金額のうち、資本金に計上しなかった金額は、「資本準備金」勘定（純資産）で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　座　預　金	**500,000**	**資　　本　　金**	**300,000**
		資　本　準　備　金	**200,000**
創　　立　　費	**70,000**	**当　座　預　金**	**70,000**

当座預金：@50,000×10株＝500,000

資本金：500,000－資本準備金200,000＝300,000

資本準備金：@20,000×10株＝200,000

試験対策問題２－11　**群馬物産株式会社（発行済株式数2,400株）は、株主総会において、繰越利益剰余金を次のとおり配当および処分することを決議した。ただし、繰越利益剰余金勘定の貸方残高は1,000,000円である。**

利益準備金24,000円　　配当金1株につき100円　　別途積立金60,000円

配当決議時において、配当金の１／10を、法定準備金が資本金の１／４に達するまで積立を行いますが、本問では資本金や法定準備金の残高が与えられていないため、いわゆる１／４規定は考慮外として回答して下さい。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
繰越利益剰余金	**324,000**	**利　益　準　備　金**	**24,000**
		未　払　配　当　金	**240,000**
		別　途　積　立　金	**60,000**

未払配当金：@100×2,400株＝240,000

利益準備金：配当240,000× $\frac{1}{10}$ ＝24,000

試験対策問題２－12　**福岡商事株式会社は、株主総会で決議された配当金240,000円の支払を銀行に委託し、小切手を振り出して支払った。**

株主総会決議時に配当金は「未払配当金」勘定（負債）で処理しているため、配当金支払時には、「未払配当金」勘定（負債）の減少として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
未払配当金	**240,000**	**当座預金**	**240,000**

（5）決算振替

試験対策問題２－13　**長崎株式会社は、決算の結果、当期純利益27,000円を計上した。**

株式会社では、「損益」勘定で算定した当期純利益を「繰越利益剰余金」勘定（純資産）の貸方に振り替えます。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
損益	**27,000**	**繰越利益剰余金**	**27,000**

試験対策問題２－14　**鳥取株式会社は、決算の結果、当期純損失36,000円を計上した。**

株式会社では、「損益」勘定で算定した当期純損失を「繰越利益剰余金」勘定（純資産）の借方に振り替えます。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
繰越利益剰余金	**36,000**	**損益**	**36,000**

（６）法人税等

試験対策問題２－15　**宮崎商事株式会社（決算年１回）は、中間申告をおこない、前年度の法人税、住民税及び事業税の合計額100,000円の２分の１を小切手を振り出して納付した。**

中間納付額は「仮払法人税等」勘定（資産）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仮払法人税等	**50,000**	**当座預金**	**50,000**

仮払法人税等：100,000×1/2＝50,000

試験対策問題２－16　**埼玉商事株式会社（決算年１回）は、決算にあたり、当期の法人税、住民税及び事業税の合計額40,000円を計上した。ただし、中間申告のさい11,000円を納付しており、仮払法人税等勘定で処理している。**

中間納付額は「仮払法人税等」勘定（資産）で処理しているので取り崩し、差額は「未払法人税等」勘定（負債）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
法人税等	**40,000**	**仮払法人税等**	**11,000**
		未払法人税等	**29,000**

未払法人税等：法人税等40,000－中間納付11,000＝29,000

試験対策問題２－17　**岐阜商事株式会社（決算年１回）は、法人税、住民税及び事業税の確定申告をおこない、決算で計上した法人税等の額から中間納付のさいに納付した額を差し引いた30,000円を現金で納付した。**

決算で計上した法人税等の額から中間納付額を差し引いた金額は「未払法人税等」勘定（負債）で処理しますので、納付時には「未払法人税等」勘定（負債）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
未払法人税等	**30,000**	**現金**	**30,000**

（７）特殊商品売買

試験対策問題２－18　**千葉商店は、得意先柏商店に試用販売のため、A品（原価50,000円、売価70,000円）とB品（原価30,000円、売価50,000円）を送付していたが、本日、同店からA品を買い取るとの通知を受け、B品は返送された。なお、商品の発送時に対照勘定を用いて備忘記録をしている。**

　試用販売のために商品を送付した時に、対照勘定で備忘仕訳を行っていますので、買取の通知を受けた時や返送を受けた時に、対照勘定を取り消す仕訳を行います。

借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
売掛金	**70,000**	**売上**	**70,000**
試用仮売上	**120,000**	**試用販売契約**	**120,000**

試験対策問題２－19　**千葉商店に商品240,000円を24ヶ月の均等分割払いで売り渡していたが、本日、最終回の割賦金10,000円を現金で受け取った。**

　割賦販売による売掛金は「割賦売掛金」勘定（資産）で処理します。

借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
現金	**10,000**	**割賦売掛金**	**10,000**

試験対策問題２－20　**上信越商店に注文していた商品400,000円について、本日、同店が取り組んだ荷為替手形280,000円の引き受けをして、船荷証券を受け取った。なお、残額は掛けとした。**

　商品に関する船荷証券を受け取った時は「未着商品」勘定（資産）で処理します。また、荷為替を引き受けた時は「支払手形」勘定（負債）で処理します。

借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
未着商品	**400,000**	**支払手形**	**280,000**
		買掛金	**120,000**

試験対策問題２－21　**高知商店に注文した商品300,000円に対する船荷証券を、愛媛商店に500,000円で売り渡し、代金は同店振り出しの約束手形で受け取った。**

商品に関する船荷証券は「未着商品」勘定（資産）で処理していますので、それを売り渡した時に「未着商品」勘定（資産）から「仕入」勘定（費用）に振り替えます。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
受取手形	**500,000**	**売上**	**500,000**
仕入	**300,000**	**未着商品**	**300,000**

試験対策問題２－22　**かねて、前橋商店に販売を委託していた商品（仕入原価90,000円、発送諸掛3,000円）について、本日、同店から売上計算書（売上高120,000円、保管料等の諸掛7,000円）とともに差引手取金113,000円を小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。**

商品の販売委託時に「積送品」勘定（資産）で処理していますので、それを売り渡した時に「積送品」勘定（資産）から「仕入」勘定（費用）に振り替えます。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
当座預金	**113,000**	**売上**	**113,000**
仕入	**93,000**	**積送品**	**93,000**

積送品：仕入原価90,000＋発送諸掛(付随費用)3,000＝93,000

（8）本支店会計

試験対策問題２－23　**神奈川商店の本店は、通信費12,000円を現金で支払った。ただし、このうち9,000円は支店の負担分である。（本店の仕訳）**

借方科目	金額	貸方科目	金額
通信費	**3,000**	**現金**	**12,000**
支店	**9,000**		

なお、支店では以下の仕訳を行っています。

借方科目	金額	貸方科目	金額
通信費	9,000	本店	9,000

試験対策問題２－24　**新潟商会の本店は、長岡支店が湯沢支店に現金3,000円を送付したとの通知を受けた。ただし、本店集中計算制度を採用している。（本店の仕訳）**

借方科目	金額	貸方科目	金額
湯沢支店	**3,000**	**長岡支店**	**3,000**

なお、長岡支店では以下の仕訳を行っています。

借方科目	金額	貸方科目	金額
本店	3,000	現金	3,000

また、湯沢支店では以下の仕訳を行っています。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	3,000	本店	3,000

試験対策問題２－25　**福井商会の本店は、支店に送付した商品のうちに品違いがあったので、原価20,000円の商品の返送を受けた。（本店の仕訳）**

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**20,000**	**支店**	**20,000**

なお、支店では以下の仕訳を行っています。

借方科目	金額	貸方科目	金額
本店	20,000	仕入	20,000